

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015
4月

No.118

特集
P2・3

つながりなくしプラン最終年!

宍粟での新しい

つながりのカタチづくりへ

平成27年度
事業計画と予算

一宮町 東市場

ひ孫と
いっしょ

シリーズ 117

まえだ
前田

ちえのさん(85歳)

かんすけ

○勘介くん(10歳)

ほまれ

○帆希ちゃん(7歳)

ち

○千湖ちゃん(5歳)

まえだ

前田 和喜さん・和枝さん

■長男・長女・二女

つながりふくしプラン最終年!

宍粟での新しい つながりのカタチづくりへ

平成27年度
事業計画と予算

宍粟市社会福祉協議会の平成27年度事業計画案及び資金収支予算案は、3月27日(金)に開催した第26回評議員会において原案どおり可決承認されました。
今月号では、平成27年度の基本方針と重点事項、予算の概要をお知らせします。



今年度は小地域や福祉連絡会を中心に「近所で支えあえる仕組みづくりやみんなが集える場(拠点)づくりの推進を図っていきます」
写真は西深自治会さくらまつりの様子(H26・4・13)

基本方針

- 「第2次地域福祉推進計画(つながりふくしプラン)」の最終年次の活動を進めながら、第3次地域福祉推進計画の策定を行います。宍粟市の第2期地域福祉計画との整合性をはかりながら、関係機関と連携・協働した計画を策定します。
- 社協合併10周年にあたり、記念誌の発行と共に記念事業を行います。
- 生活困窮者自立支援法の施行や介護保険制度の改正において、今まで以上に社協の役割が重要視されています。引き続き生活支援と地域支援を合わせた総合的な地域福祉の推進をめざします。
- 介護保険事業や障がい者福祉サービスについて、事業の健全運営に取り組みながら、利用者地域の中で自立した日常生活を営めるよう、支援やサービスを提供します。
- 社協組織改革の課題を明確にしなが、働きやすい職場環境づくりに努め、職員の定着を図ります。

重点事項

1 自治会域での福祉の つながりづくりのために

- 「小地域福祉活動第2期モデル地区指定事業(2年次の最終年)」を推進します。
- 自治会福祉連絡会を中心とした見守りの仕組みづくりのための「見守りネットワーク活動」の推進を図ります。
- 福祉委員や福祉活動リーダーを対象とした研修会を実施(担い手の養成)します。

2 宍粟市全域での福祉の つながりづくりのために

- 退職世代を対象とした「ボランティア養成講座」を開催します。
- 「災害ボランティアセンター設置訓練」の実施や「災害救援ボランティア活動支援マニュアル」の改定を行います。
- 「大規模災害時の社協事業継続計画(BCP)」の見直し等を図ります。

3 地域での暮らしを支えるための つながりづくりのために

- 成年後見制度の研究と福祉サービス利用援助事業の啓発と普及をさらに進めます。
- 地域で支え合う新しい仕組みづくりと「近所ボランティア活動」の推進を図ります。
- 限界集落化していく地域を支える買い物支援バス「お出かけ号」の運行や毎日型配食サービスの検討を行います。

4 社会福祉協議会の 基盤強化のために

- 地域福祉課題の解決や社協組織強化をめざした「第3次地域福祉推進計画」を策定します。
- 理事と職員による「役職員業務研究会」を継続して実施します。
- 地域福祉活動を支える自主財源の安定的確保に向けた取り組みを進めます。

平成27年度社協予算 4億4,439万3,000円 (前年度比4,299,000円増)

◆平成27年度資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	差引増減額 (A) - (B)	摘 要
事業活動による収支	収入				
	会費収入	13,490	13,820	△ 330	社協一般会費 (8月)、賛助会費 (2月、3月)
	寄附金収入	13,800	14,800	△ 1,000	善意銀行預託金
	経常経費補助金収入	87,996	89,093	△ 1,097	市、県からの補助金収入
	受託金収入	31,323	27,352	3,971	市から委託された事業の受託金収入
	貸付事業収入	350	350	0	低所得の方への小口貸付償還金
	事業収入	24,511	24,176	335	参加費収入、利用料収入等
	共同募金配分金収入	11,270	11,908	△ 638	平成26年度共同募金による配分金 7,350千円、平成27年度歳末たすけあい募金による配分金 3,920千円
	負担金収入	1,225	1,225	0	老人クラブ連合会、福祉団体からの負担金
	介護保険事業収入	225,235	233,937	△ 8,702	介護保険事業による収入 (デイサービス、訪問介護等)
	障害福祉サービス等事業収入	19,090	16,586	2,504	障がい者自立支援事業による収入 (障がい者訪問介護、ゆめぶらん)
	受取利息配当金収入	885	560	325	預金利息
	その他の収入	577	72	505	その他の収入
	事業活動収入計 (1)	429,752	433,879	△ 4,127	
	支出				
	人件費支出	307,047	307,628	△ 581	役員報酬、職員人件費
	事業費支出	60,261	63,709	△ 3,448	社協事業全般に関する事業費
	事務費支出	45,325	42,059	3,266	印刷製本費、通信運搬費、事務機器・車輛リース料、事務消耗品費等
	貸付事業支出	330	330	0	低所得の方への小口貸付金
	助成金支出	14,830	15,633	△ 803	自治会福祉連絡会ボランティアグループ等への助成金
	負担金支出	1,152	384	768	全社協・県社協負担金、その他事業の負担金
	利用者負担軽減額	95	178	△ 83	低所得世帯に対する介護保険サービス等利用料軽減額
	事業活動支出計 (2)	429,040	429,921	△ 881	
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	712	3,958	△ 3,246	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計 (4)	0	0	0	
	支出				
	固定資産取得支出	5,795	216	5,579	社協コンピューターシステムサーバーの購入
その他の活動による収支	施設整備等支出計 (5)	5,795	216	5,579	
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 5,795	△ 216	△ 5,579	
	収入				
	積立資産取崩収入	8,316	6,215	2,101	サーバー購入のため積立金を取崩
その他の活動による収支	その他の活動収入計 (7)	8,316	6,215	2,101	
	支出				
	積立資産支出	50	60	△ 10	積立預金受取利息分を積立
	その他の活動による支出	9,008	8,897	111	職員退職手当基金への積立
その他の活動による収支	その他の活動支出計 (8)	9,058	8,957	101	
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 742	△ 2,742	2,000	
	予備費支出 (10)	500	1,000	△ 500	予備費
	当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 6,325	0	△ 6,325	全収入-全支出 平成27年度支出で不足する額
前期末支払資金残高 (12)		175,140	162,602	12,538	平成26年度分の繰越金
当期末支払資金残高 (11)+(12)		168,815	162,602	6,213	平成27年度末の資金残高予定額

平成27年度予算の特徴

○介護保険事業収入は870万円の減収

平成27年4月から改定された介護報酬がマイナス2.27%の改定となったことから、介護保険事業収入は前年度に比べ870万円減収としています。

○寄付金収入は100万円の減額

これまで生活改善の一環として葬儀の場合の香料返しを町内ではしないという申し合わせがなされ、その代わりに善意銀行へ故人の供養としてお寄せいただいていた。近年その意識がうすれつつあり、預託件数と預託額ともに減少していることから寄付金収入 (善意銀行預託金収入) を100万円減収としています。この影響で地域福祉活動に使用する財源がきびしくなっています。

○備品や車両を入替

合併後10年が経過し、古くなった設備の修理、備品の入替などの対策が必要になっています。10年のリース契約が終了するコンピューターシステムサーバーをこのたび新たに購入するほか、経年劣化している車両7台をリースにより入れ替えます。

○不足する財源は...

システムサーバーの入れ替え経費は、合併前の町社協において介護事業の収益を積み立てていた基金の一部を取崩します。マイナスとなった当期資金収支差額 (全収入-全支出) については、前期末支払資金残高 (平成26年度繰越金) を充当します。

※本年度の事業計画書、予算書の詳細については、本会ホームページ、本部・各支部の窓口に置いている資料でご覧いただくことができます。ご遠慮なくお申し出ください。

やさしさ
まさき

『認知症』をもっと知ろう!

老人クラブ女性部の取り組み

3月25日(水)、山崎支部老人クラブ連合会の女性部が、宍粟防災センターで『認知症について考えよう!』をテーマに研修会を開催し、54人が参加しました。

当日は、宍粟市地域包括支援センターから講師を招き、認知症の症状や予防方法、接し方について学びました。

その後、老人クラブの活動

を通して自分たちに出る支援や関わり方を話し合い、「やさしく声をかけるようにしたい」「お互いの気持ちで助け合うことが大切」などの感想が出るなど自分自身の予防意識も高まった様でした。

また、アンケートには「支援が必要と感じた」「支援する仕組みがあれば協力したい」など、本人や家族を孤立させないために、地域全体で関わることの大切さについての意



誰でも認知症になる可能性がある…認知症の疑いがあるかどうかを判断する「日常生活チェックリスト」に一言一憂する場面も(宍粟防災センター)

見が多くありました。

現在、宍粟市では認知症による徘徊などを支援する仕組みについて、専門機関や専門職で協議が進められています。

このような研修を自治会など身近な地域で開催することで、理解がさらに深まりその支援について話し合う機会が増えることを期待しています。

(山崎支部 森井裕矢)

い
ちのみや

ここ来るとホッとする!

いちのみや子育てサロン

3月26日(木)、三方町交流センターでいちのみや子育てサロンを開催し、46人の親子が集まりました。

今回は、生涯学習サポート兵庫の講師をお招きし、子どもたちは手遊びをしたり風船を作り、元気いっぱいに過ごしました。

「サロンに来ると、親子で知り合いになれるし、

母親同士で話をするとホッとしますね」と参加者の世良結衣さん。

同サロンは、ボランティアや子育て支援センターの協力のもと、今年で8年目を迎え、一宮北中校区での子育て支援の拠点として行っています。

お母さんにとっては、子どもの様子を見守りながら、ゆっくりと話ができて、リフレッシュや友達づくりの場となっています。



友達ができるよ

「お母さんのところまで“よーいどん”!!」
(三方町交流センター)

す。

社協は、今後も地域と家庭の架け橋として、地域で楽しく子育てができるサロンをいっしょに創っていきます。

子育て世代の方はもちろん、地域のみなさん、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。地域全体で子どもの成長を見守っていきましょう。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

いちのみや子育てサロン
会場：三方町交流センター
日時：毎月第3木曜日
午前10時～11時30分

夜警が高齢者の見守り活動に

原有賀の取り組み

3月15日(日)、原有賀の公民館で行われたふれあい喫茶に、52人が足を運びました。

「特徴ある活動? これといって特別なことは何もしてないな」と参加者のみなさんは話されます。しかし、お話を伺う中で、昔からの伝統行事を大切にしていることが伝わってきました。

ひなまつりには、子どもが各家のお雛様を見て回ったり、夜警(火の用心のため)に歩いて回るが今でも継承されています。

夜警は以前は子どもが行っていましたが、人数が減った今では、地域を挙げて毎日交代で実施されています。

「25世帯程の自治会だから地域のつながり



「いつもご苦労さんやなあ」夜警は地域の人とのコミュニケーションの機会でもあります(原有賀)

が強いのかな。夜警は、今では高齢者の見守り活動にもなっているしね」と自治会長の岡田勝治さん。

特別な事をするのではなく、昔から継承されている取り組みが、無理せずに出る支え合いの活動となっています。今回、ふれあい喫茶に参加し地域のつながりの強さを知ることができました。

(波賀支部 平 有利菜)

来年も頑張ろな!

千種ボランティア連絡会

3月20日(金)、千種保健福祉センターで、26年度最後の千種ボランティア連絡会が行われ、グループの代表14人が出席しました。

会議では、26年度の振り返りを行い、連絡会やグループの取り組みをはじめ、本会広報紙「こんにちは!社協です!!」の中から千種のボランティア活動を紹介した紙面を、スライドで上映しました。

「写真でみると、そのときの様子がよく思い出せるな」「私、けっこう頑張ってるな」など、スクリーンを見ながらいろいろな声がかれました。

そのあと、一人ずつグループの取り組みや一年の振り返りを行い、最後に東日本震災からの早期復興を願って全員で黙とうを捧げました。



文字だけでなく映像で振り返ることで、全員で共有が図れました(千種保健福祉センター)

このように、スライドや意見交換などを通して、千種のボランティアの状況や連絡会の取り組みなどを全員で確認することができました。

「来年も頑張ろな」の力強い声もいただき、今回の集まりが来年度につながる大切な機会となりました。27年度もよろしく願います。

(千種支部 小原志のぶ)

はが

ちくさ

配食活動に活かしたい



久々の再会
話も弾みます

3月13日(金)
西播磨リハビリセンター

山崎の配食グループが研修会を開催し、14人が参加しました。

今回は、「介護について知りたい」と声があり、西播磨リハビリセンターの施設見学をしました。

参加者からは「こんな施設があったんやな」「介護用品も便利なものがたくさんあったな。配食の利用者さんに教えてあげよ」などの声が聞けました。

配食ボランティアは、個人活動が多いため仲間と顔を合わせる機会が意外と少なく、研修を通じて交流や今後の活動にいかせる学びの場となりました。

(山崎支部 横山洋子)

ボランティア センター日誌

点字絵本が出来ました



「点字を打つのは難しかった」

3月20日(金) 宍粟防災センター

伊和高校の生徒9人が点字の絵本を作製し、市内で活躍するボランティア「点訳グループあい」へ寄贈しました。

生徒たちは2年生で学ぶボランティア実践を受講し、同グループの指導のもと点訳を学び、「目の不自由な人の子どものために絵本を読んであげたいと思う気持ちで作りました」「点字は難しかったけど、何かの役に立てたら」と絵本づくりに挑戦しました。

この絵本は視覚障がい者の方々にも読んでもらうほか、福祉学習や点字教室で活用されます。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

お詫びと訂正

3月号の輪っしよいボランティアで紹介しました伊和高校ボランティア部青い鳥の活動で誤りがありました。正しくは次のとおりです。

ロータスクーポンを収集整理 ⇒ ◎ベルマークを収集整理

関係者の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。なお、青い鳥では引き続きベルマークを収集していますのでご協力をお願いします。

宍粟から追悼

～この祈り 東北へ～

3月11日(水)

東日本大震災から4年。宍粟市ボランティア連絡会では震災で亡くなられた方々の追悼と被災地の復興を祈願し、市内各地で追悼行事を行いました。



宍粟防災センター

未来へ

一宮保健福祉センター

忘れない



市内で活動するボランティアをはじめ、学生や親子連れなど延べ200人が被災地の復興を祈りました。



千種保健福祉センター

復興を